

地域金融機関経営における効率性と公共性に関する研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授

阿部 廉 Abe Yasushi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 効率性・公共性・地域密着型金融・ガバナンス・持続可能性



研究の概要

SDGs 目標 8 : 働きがいも経済成長も

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

本研究は、地域金融機関の経営における「効率性」と「公共性」の両立を探るものである。

信用金庫型経営は、共同組織として相互扶助の理念を基盤としつつ、利益確保も不可欠であり、日本型マイクロ金融の担い手として、地域資金の域内循環を担ってきた。しかし、地域衰退とともに経営も縮小均衡を余儀なくされる宿命を抱え、営業地盤の規模や地方創生力が存続可能性を左右する。他方、銀行型経営は、株式会社として株主利益を意識せざるを得ず、広域合併や非リレバン型事業への展開を模索する。

地域金融機関は、利益獲得に加え社会的要因の影響を強く受け、長期的に利益確保が困難な場合には清算や合併に至る点では、一般の株式会社と大差はない。また、地域経済活動に依存するため、生存域別の分析が不可欠である。

近年、収益対策としての店舗削減や手数料引き上げは顧客不満を招き、存在意義の低下と悪循環を誘発している。地域金融機関は、単なる利潤追求ではなく地域活性化への貢献を使命とし、公益と資本の論理を高次元で両立させる経営モデルの構築が求められている。

地域金融機関の「効率性」と「公共性」の両立モデル

信用金庫型

(協同組織)

- ・相互扶助の概念
- ・利益確保も不可欠
- ・日本型マイクロ金融の担い手
- ・地域衰退とともに縮小均衡

銀行型

(株式会社)

- ・株主利益意識
- ・非リレバンの事業展開・越境融資等も
- ・営業基盤の規模や地方創生力が存続可能性のカギ

共通構造的課題

- ・地域経済に依存
- ・利潤追求+社会的要因
- ・長期的な利益確保の不透明

求められる方向性

- ・「効率性」と「公共性」の両立
- ・地域活性化への貢献
- ・生存域別の戦略設計

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】・効率性と公共性の両立を、収益構造や地域経済指標に落とし込み実務へ応用。

【産業界・自治体へのアピール】・地方創生施策と金融機関経営の連動性を強調。

【協力可能事項】・共同研究や勉強会の開催。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・「長谷川敏朗（埼玉大学大学院）報告論文（地域銀行経営としての経営統合の意図と現実～地銀・第二地銀に着目して～）へのコメント」

・「堀江 康熙 教授（九州大学）報告論文（信用金庫の経営問題：コロナ禍と合併効果）へのコメント」

・「銀行による企業経営分析の課題」